

平成29年度小田原市総合戦略有識者会議における効果検証等概要

1. 【小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略】

- ・ K P I の実績について。観光入込客数は、他地域でも増加している可能性もある。2年目なのでまだいいとは思いますが、今後ある期間が経過した際には、他地域と比べた場合にその実績がどうなのかということを検証してもよいのかもしれない。一喜一憂しない方がいい。
- ・ 小田原市は地方創生関連の交付金をよく獲得できている。
- ・ 起業家支援関連の指標については、目標に対しての実績が非常によい。
- ・ 求職環境の改善と保育園の受け皿整備が同時並行的に進まないとな女性の就労などにつながらない。
- ・ しごとに関していえば、報道されているように求人が多い一方で、求職者は減り続けている。ただ、希望する求人はなかなかないという現状。また、65歳以上の団塊世代についていえば、求職者数も上がっており、働く意欲のある高齢者の活用が必要である。一方で、女性はM字型の下がったところの押し上げが男女差、年齢差でいうとまだまだ足りない状況。
- ・ 65歳を過ぎても働く意欲がある人はいるので、そういった人達を企業でどのように活用していくかが今後の課題。
- ・ 所属している地銀では、創業に関する相談が増えている。そういう意味では創業マインドは、少しずつでも大きくなってきているように感じる。
- ・ 待機児童対策については、保育士資格を持っている人も少ないかと思われる。人材確保がなかなか難しい。まだ、小田原はいいほうだと思う。

2. 【地方創生関連交付金事業】

- ・ 歴史的建造物を保存していくのは大切なことだが、それと合わせてお金の捻出方法や観光客に来てもらえるかを上手くリンクさせてやっていけるかが大切。
- ・ 交付金事業に関連しての話となるが、創業支援は、小田原市と箱根商工会議所との連携事業で、創業支援のベンチャーとして小田原市を代表するようなH a m e e（ハミー）さんにセミナーに来ていただき、話があった。小田原高校等の色々な高校が参加する。就職とは別にベンチャー起業などの道も早くから伝える取組も大事だと思う。
- ・ 小田原のまちなかは品が出てきた。登山ビルや地下街も変わり、さびれたものがなくなり、印象的に変わってきた。来る人にも住む人にもいい方向になっている。それをどう数値にして表すかという話になるとそこは課題。
- ・ 小田原市で購入した場所は、歩道を広げたり空き地に芝生を植えたりするなど、小田原城の登城ルートや商店街への人の流れをつくりだせるよう、回遊性向上に向けた整備が進められている。
- ・ (起業支援について)他の地域では、お互いのプラットフォームにお金を持ち寄るものといったものがある。税金の使い道は、民が主体だが官も相乗りや拠出をしてというもの。そういった取組も是非、検討して欲しい。
- ・ (空き家の活用について)空き家を空き家物件化すべきである。長野県では、民間の不動産屋が積極的に空き家を物件化している。さらに、空き家ツアーを全国に先駆けて、参加者を呼んで実施

しているが、その時には建築家や設備屋を連れて行くような事例もある。そういったことも参考としてもらいたい。

- (交流人口について) ソフトを充実させることもいいが、ハード面も重要で、それが良くなると、歩きたいと思わせるだけでも大きな変化があるので、大切にしてもらいたい。
- 遊休不動産の実態調査をしているかと思う。空き家ツアーの参加者が、起業時に活用するのは良いことだし、そういう取り組みはボディブローのように効いてくる。行政と一緒にあって、民の力を借りながら紹介をしていくのは大事だと思う。